＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

竹の可能性を掘り起こせ！

目指します！

京教をより魅力的なキャンパスに！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第１章　プロジェクトの概要など

１．竹の可能性を掘り起こせ！目指します！京教をより魅力的なキャンパスに！通称竹友会では 2016 年 6 月～12 月まで研究活動を行った。

活動目的

京都教育大学内の放置竹林の整備

竹林整備により発生した間伐材他の利用の研究

竹を用いたものづくりの研究・実践

学内団体・地域自治体との連携

プロジェクトの詳細

２．代表者および構成員

・代表者

河合　弘明　技術領域専攻　　２回生

・構成員

荻野　歩　　技術領域専攻　　３回生

野原　楓　　技術領域専攻　　３回生

貞永　澪音　理科領域専攻　　２回生

服部　泰久　技術領域専攻　　２回生

宇佐　光李　発達障害教育専攻　２回生

奥村　結実　発達障害教育専攻　２回生

片岡　菜月　発達障害教育専攻　２回生

神田　優佳　発達障害教育専攻　２回生

渡邉　開　　社会領域専攻　　２回生

３．助言教員

土屋　英男（産業技術科学学科）

４．協力団体と協力者

黒田　恭史　本学数学科教授

南山　泰宏　　本学環境教育実践センター専任教員

林　禎之　　映像クリエイター

第２章　内容や実施経過など

１．竹林整備

期間：一年中

京都教育大学内に広がる約 350 ㎡の竹林は去年（2016 年）1 月時点でほぼ放置竹林という状態であった。竹以外の草木が繁茂し、竹林内には不法投棄されたごみもあった。また敷地内は薄暗くて風通しも悪く、藪蚊が大量に発生していた。竹を用いた活動をするうえで安全な作業場所の整備や保全を進めることは初めに取り組まなければならない活動であると判断し、年間を通して増えすぎた竹の間引き間伐や竹以外の樹木の伐採を行った。間伐した竹は竹灯籠や竹馬、門松等竹を利用した研究・実践活動の材料とした。

２．七タイベント

期間：6 月 27 日～7 月 15 日

（1）日本文化である七夕を本学学生だけでなく、教職員の方にも体験してもらうために、竹林整備において出た間伐材を用いて 6 月 27 日～7 月 15 日まで学生課フロア、談話室、C 棟ロビー、生協購買において笹を飾り短冊に願い事を書いてもらった。

（2）京都教育大学の新たなイベントの一環として、7 月 7 日に正門付近の一角に竹林整備において出た間伐材を再利用して作った竹灯籠を設置し、ライトアップを行った。製作の際に林禎之氏（本学を卒業した映像クリエイター）に竹灯籠作りを取り上げていただき、竹灯籠の映像教材作りに協力していただいた。黒田恭史教授（本学数学科）より京都教育大学公式 Youtube チャンネルで配信する映像教材として竹灯籠作りを取り上げていただいた。

（3）外国の方にも日本の夏の風物詩である流しそうめんを体験してもらうために、７月７日国際交流サークル FIRA と連携して流しそうめん大会と七夕企画を行った。流しそうめん大会では高さ約３m、長さ約８mのレーンを設け、そうめんや飴玉、フルーツなどを流した。その後、短冊に願い事を書いてもらい、笹に飾った。

（4）７月８日、音楽領域有志による七夕コンサートが催され、会場となった音楽演奏室の入り口、室内装飾を行った。屋外に飾る竹灯籠だけでなく屋内に飾る竹灯籠の作成を目的に、電気キャンドルを用いて屋内向け竹灯籠の製作に取り組んだ。

（5）7 月 15 日華道サークル一華會と連携し七夕のライトアップを演出した。約 130 もの竹灯籠の灯りが正門一帯を照らし出し、七夕の夜を飾った。子の様子は京都新聞の記事にも掲載され記事を見てこられた外部の方も多く見られた。

（6）7 月中旬、本学軽音部七夕ライブにおいて会

場となる講堂入り口の装飾を行った。講堂での装飾の実践、研究を目的とし、軽音部の部員とともに試行錯誤し、２本の大きな竹を配置し、入り口には軽音部の旗をのれん風に仕立てた。これまでにない装飾にライブ期間中は多くの人が訪れ、短冊に願い事を書いたり、ライブに参加したりして盛り上がった。

３．藤森盆踊りフェスティバル出展

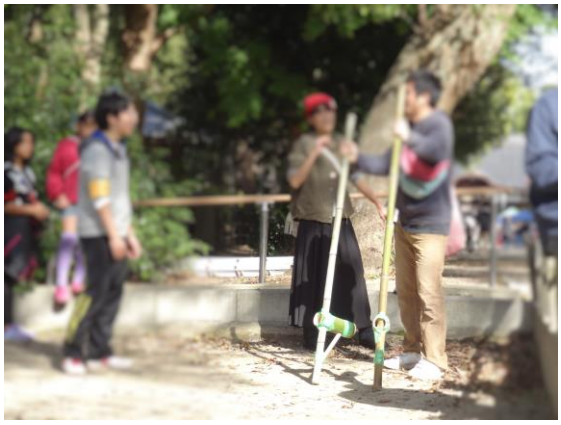
期間：８月７日

８月７日、藤森神社にて藤森地域自治体主催の藤森盆踊りフェスティバルが開催された。西福寺幼稚園の園児、藤森小学校の児童が作った紙灯篭とともに学内七夕ライトアップで用いた竹灯籠を設置し、藤森神社でのライトアップを実施した。藤森盆踊りフェスティバルの様子は伏見経済新聞にも取り上げられ、当日は２０００人が訪れ大変な盛り上がりを見せた。

４．藤森子ども祭り出展

期間：１０月３０日

藤森地域自治体、加用文男教授（本学幼児教育専攻）、児童文化研究会さわらび主催で藤森子ども祭りが催された。竹遊びと題して竹馬と竹ぽっくりを出展し、多くの子ども（４～１０歳の子ども）とその保護者に竹遊びを体験してもらった。多くの子供が竹ぽっくりや竹馬で遊ぶ経験をしたことが無く、竹友会スタッフや子どもらの保護者とともに乗り方を教えた。竹馬に上手に乗る子どもの場合は、竹友会スタッフや保護者が逆に子どもから教えられるなど、子どもと保護者がいっしょに楽しむ姿が見られた。



５．藤陵祭参加

期間：１１月１１日、１２日

藤陵祭で竹遊びと題し、竹馬と全高約８ｍの竹のブランコを出展した。１１月１１日は平日のため本学学生が主に訪れた。１１月１２日は多くの来場者でにぎわい、竹馬、竹のブランコを多くの人に体験していただいた。竹馬は親子ともに楽しむ姿が見られた。竹のブランコは初めて乗る子どもが多く、何度も繰り返し列に並び乗っていた。保護者も乗ったことがない方が多かったため、竹馬と同じく親子ともに楽しむ姿が見られた。１日で延べ２００人が竹遊びの出展に参加し、朝から夕方まで多くの人が訪れた。

６．ミニ門松作り

期間：12 月 15 日、12 月 21 日、12 月 25 日

（1）ミニ門松づくり

ワークショップを通して日本の正月飾りである門松を作り、モノ作りの楽しさを体験してもらうことと同時に、日本の文化を知ってもらうことを目的として、１２月１５日国際交流サークル FIRA と連携しミニ門松作り講座を行った。パワーポイントを用いて日本の伝統文化である門松を説明した後、京都教育大学内にある植物を用いてミニ門松作りのワークショップを行った。ワークショップでは斜めに切った竹を選び、テープで固定し、鉢に飾り結びをした後、本学藤森学舎にある植物を飾り付けた。

７．門松づくり

期間：１２月１８日～３０日

日本の伝統的な正月飾りである門松についての知識を深め、実際に作ることにより竹友会メンバーの技術向上、並びに門松を実際に飾ることにより、竹友会の活動をより広く知ってもらうことを目的とした。作成した門松は本学藤森学舎、環境教育実践センターにあるマツ、タケ、ウメ、ナンテン、クロガネモチなどの植物を用いて本学正門、学生会館入り口、藤森神社、京都銀行墨染支店へ合計４対設置した。

第３章　結果や成果など

１．竹林整備

１年間の竹林整備を通して、竹以外の木の多くは伐採され、薄暗く風通しの悪い竹藪から、ある程度見通すことができる竹林に整備された。

密集した竹や細い竹､立ち枯れをした竹をはじめ、さらに雑木等を伐採することで竹林全体の風通しが良くなり、日当りも改善された。地面には不法投棄されたごみや、過去に伐採されてそのまま放置された雑木が散乱していたため、木々の伐採と同時にそれらを竹林の外に運び出した。これにより、今後の竹林内での活動の安全性を向上させることにつながった。２０m近くある竹を切り出す際は声かけや周囲の安全の確認を欠かすことができず、のこぎり等の道具の使い方を誤ると怪我をする可能性が大いにある。このような作業現場において事故の起こるリスクが高いことをメンバー全員が知り、竹林整備を通して安全面の確認、危険予知といった力が身についた。

２．七夕装飾

構内各所での七夕装飾をきっかけに、京都教育大

学の新たなイベントを企画することができた。設置した箇所の笹には多くの短冊が取り付けられ、学生だけでなく教職員の方にも願い事を書き楽しんでいただいた。竹友会が実施したアンケートでは、多くの方が七夕祭りを楽しんでくれたという結果が得られた。

３．藤森盆踊りフェスティバル出展

藤森盆踊りフェスティバルでは新たに地域とのつながり、学外とのつながりができ、盆踊りフェスティバルに出展することにより新たにできたつながりを深めることができた。自治体の方より「京都教育大学とはいろいろな形で連携したい。竹友会の活動もぜひ地域の活動と一緒にできたらいいと考えている」と、京都教育大学並びに竹友会と連携したいという地域の要望があることを知った。特に竹灯籠については多くの方に興味を持っていただき、次年度はライトアップイベントとして竹灯籠を取り入れ企画したいと自治体の会合で議題として取り上げていただいた。

４．藤森子ども祭り出展

藤森盆踊りフェスティバルで出展したことをきっかけに、ぜひ竹友会に出展してほしいと藤森地域自治体の方より依頼を受け、児童文化研究会さわらびと連携する形で藤森子ども祭りに出展した。出展にあたり、竹馬と竹ぽっくり作りに臨んだ。インターネットで資料を集め、強度があり短時間で組み立てや修理ができる竹馬ができた。はじめは子どもたちが興味を示すのか不安だったが、実際に祭りが始まると竹ぽっくり、竹馬は人気があり、竹の玩具が足りずに、子どもを待たせるほどであった。

５．籐陵祭参加

藤陵祭で出展した巨大な竹のブランコは大きな人気を呼び、約 250 人もの人に乗ってもらった。藤森地域だけでなく、3 月にはボランティアとして、城陽市にある木津川総合運動公園のスタッフと連携して竹のブランコの出展を計画している。

６．ミニ門松作り

2 対 1 組として飾る門松が、飾り方によって意味が異なることや植栽に用いられる植物が飾られている意味など、比較的作りやすいミニ門松の作り方を知るとともに、門松が持つ意味を理解できた。

各ミニ門松作りでは、こちらが竹や植物等の処理・準備をすべて行い、参加者はそれを組み立てるといった内容だった。講座では飾り結びの工程が最も難しく、竹友会メンバーは当たり前のようにできていても参加者に伝えるのが非常に困難で、教える側に立つ難しさを改めて感じた。自分が理解していることと相手に理解させることは違うと理解することは、教師を目指すうえで非常に重要なことだと改めてメンバー全員が受け止めることができた。

７．門松作り

木々の切り出しや竹を斜めに切るソギ入れ、竹を決まった寸法に切って鉈で割り、縄でつなぐ竹袴作り、見栄えよく植物を飾り付ける植栽などは技術領域、農業分野の専門的知識・技能を必要とした。門松作りに取り組んだメンバーは日本文化を知ると同時に、個々の技術の向上、実践的な体験的な活動を通してモノ作りの楽しさ、難しさ、１からモノ作りをして完成に至った時の達成感など、技術科教育において重要な視点を学ぶことができた。

第４章　まとめと反省、今後の展望など

１．竹林整備

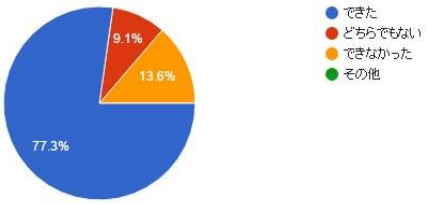
雑木が茂り、薄暗かった竹林に年間を通して手を入れることで地面にも日が射し、風通しもよくなった。竹林内での作業も放置されていた 2016 年 2 月ごろに比べ、視界が開けることで互いの作業を確認し合ったり、指示が通りやすくなった。しかしながら､依然として竹林内にはシュロ､トウネズミモチ、ナンテン、ムクノキ等生い茂っている。枯れた竹が放置されている場所もある。この他にゴミの不法投棄も多く見られる。4 月中旬から上旬にかけて採れるタケノコへの影響も懸念される。いち早くゴミを処分し作業環境を整え、タケノコ掘りに向けてこれからも竹林整備を継続していきたい。

２．七タイベント

七タイベントでは以前学園祭実行委員会が主導で行っていた七夕フェス以来の学生、教職員参加の七タイベントを企画し多くの方に参加していただいた。

はじめは短冊を飾り、流しそうめんをして竹灯籠を飾るだけの予定が音楽領域の有志のコンサートや軽音部のライブの装飾にも携わることができた。七夕イベント終了後 Google フォームでアンケート調査を実施した。

今回のイベントで大学の魅力を発見できましたか？（22 件の回答）



①

22 人の方より回答が得られた。子のほとんどが魅力を発見できたと回答しており、七夕イベントでの活動は本学の新たな魅力を発見するきっかけとなった。このほかに七夕イベントではほかにどんなことがあったら良いかという項目には、軽音部、フォークソング部、吹奏楽部、管弦楽団等による演奏会、天体観測などが挙げられた。

３．藤森盆踊りフェスティバル

藤森盆踊りフェスティバルでは、竹友会の竹灯籠と西福寺幼稚園、藤森小学校へ通う児童らが製作した紙灯篭がコラボし幻想的な風景を作りだした。子の様子は伏見経済新聞にも取り上げられた。藤森盆踊りフェスティバルに参加し地域の方とのつながりが新たにでき、竹友会の活動内容や宣伝ができた。地域の方より竹灯籠を高く評価してくださり「来年も参加してほしい。ぜひライトアップイベントを一緒に企画したい。」と声をかけていただいた。今年度の藤森盆踊りフェスティバルはとび理入り参加という形になったが 2017 年度は企画段階より地域の方と連携を取り、より竹灯籠が美しく見えるような演出を考えて、2016 年度よりも発展したライトアップを実施したい。さらに、秋～冬にかけてのライトアップシーズンに合わせてライトアップイベントも企画したい。

４．藤森子ども祭り

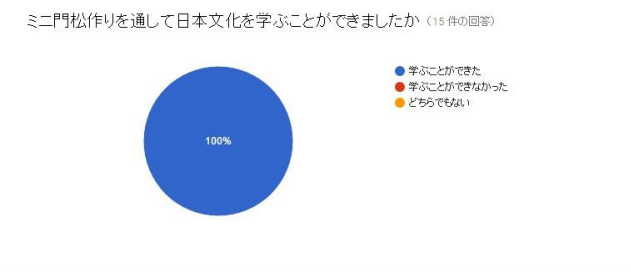
児童文化研究会さわらびより地域の方からぜひ竹友会にも参加してほしいと連絡を受けて参加した。竹馬や竹ぽっくりといった竹（自然物）でできた道具で遊ぶことは今の子どもたちにとっては珍しいのかもしれないが、保護者にとっても懐かしい遊び道具だったようで、親子がともに楽しめる機会を提供できたことが出展にあたり最も大きな収穫のように感じた。自然からも簡単に遊び道具が作れるという楽しさを竹友会メンバーも発見できた。

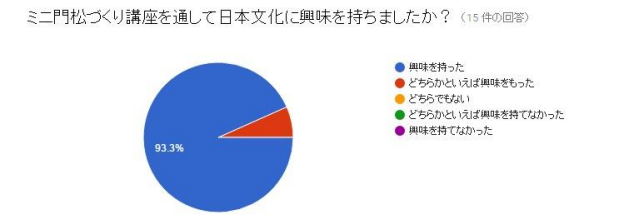
５．藤陵祭参加

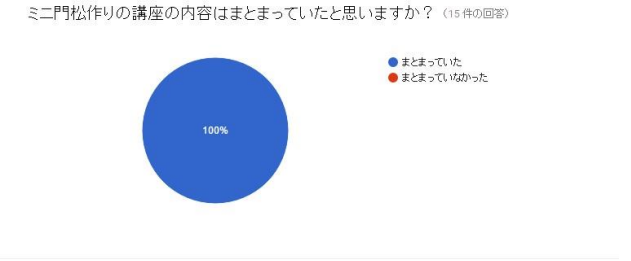
藤森子ども祭りでの経験をもとに竹馬、竹ぽっくりに加えて巨大竹ブランコを出展した。巨大竹ブランコは藤陵祭１週間前に仮設営を行い、作業手順や危険個所を確認した。組み立てではヒビが入ると割れる竹の性質は考え。釘やねじを一切用いずにロープによる結束のみで設営を行った。2 日とも午前中の立ち上げ、日中の誘導や補助ではスタッフは足りていたが、片づけの時間となるとスタッフが一人となり、解体、撤去作業に大幅な時間がかかった。

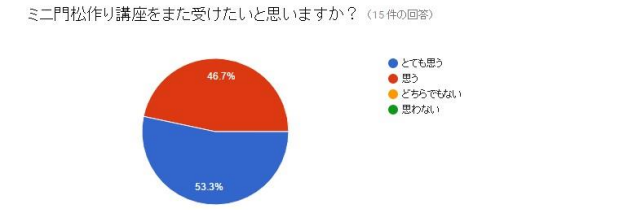
６．ミニ門松作り

留学生向け、親子向けの二回ミニ門松講座を行った。留学生向けでは門松の歴史を日本史の知識や植物の歴史、知識をわかりやすく説明するのが難しかった。国際交流サークル FIRA の方に通訳をお願いするなどしてその場は対処したが、次回講座を開く際には留学生にも伝わるよう配慮したい。実際に作る際のワークショップではスタッフ２人が作り方を説明し、参加者全員が作り上げることができた。外部の親子向けのミニ門松講座では子どもにも伝わるように門松に関するクイズを取り入れて楽しみながら門松を知ってもらおうと努めた。ワークショップにおいては親子一緒に作業に取り組み１対の門松を作りあげることができたが、何人かは集中力が切れてしまっていた。スタッフが１人であったため準備や片付けを優先したため対処することができなかった。ミニ門松作りのアンケート結果は以下の通り。









このほか「ミニ門松講座、竹友会に対する感想、ご意見がありましたらお書きください。」という記述式の回答に対し、「スタッフが多いほうがよい。」という意見が多く見られた。このほかの回答として「植物採集も一緒にやりたい。」「門松だけでなく竹を用いた遊びやモノづくりも一緒にしたい。」といった意見が見られ次にミニ門松講座を開く際の参考にしたい。

７．門松作り

藤森神社へ設置した門松は後日、藤森神社公式 Twitter でも取り上げていただき藤森神社へ訪れた多くの方に見ていただいた。藤森神社に門松が飾られたのは初めてだという。京都銀行墨染支店へ飾った門松は京都銀行広報誌に取り上げられるなど社内でも話題となった。京都銀行へ来られた多くの方から「立派ですね。」「素敵ですね。」と声をかけていただいた。外部へ飾った 2 対の門松は多くの方に見ていただき、評価された。本学正門、学生会館に飾った門松は主に本学教職員、学生の多くが目にした。作業風景を眺める人も多く興味を持って、話しかけてくださる方も多かった。

反省点としては作業人数の少なさが挙げられる。全体で 6 人のメンバーが門松作りに取り組んでいたが、すべてそろって作業する日は少なく、1 人、2 人で作業する日も少なくなかった。外部への設置の際の連絡取りやプロジェクトの説明資料など事前の準備物がそろっておらず遅れて資料を渡す場面があり、次回外部へ飾る際は連絡を入れる前に資料の作成、準備をしたうえで臨みたい。

今後の展望

少人数のプロジェクトという特性を生かし、学内団体や藤森地域自治体の方との連携、協力を得て活動することができた。今後は環境教育実践センターや学内団体とさらなる連携を計り、活動していきたい。加えて、2017 年度の活動では各活動の目標、目的を明確にしたうえで活動していきたい。単に喜んでもらうため、楽しんでもらうためでなく、竹の特性や活動の内容を踏まえたうえで十分に計画立てたうえでの活動にしていきたい。

本プロジェクトは採択されてまだ 1 年経っていないため活動するメンバーも非常に少なく、できない作業や人手が足りれば短時間で済むが、足りないゆえに大幅に時間をロスしてしまう場面が多々あった。6 月から 12 月までの活動もほとんどが 5 人未満での作業が多く、メンバー集めが急がれる。来年度は技術領域に限らず多くの領域に声をかけ、様々な領域からの参加を期待する。

＜参考・引用文献＞

参考・引用文献など